

第2章 船橋市における自殺の現状



1 自殺の統計

(1) 死因順位・自殺者数・自殺死亡率の推移

船橋市において、「自殺」の死因順位は6～8位で推移しています。(図1)

また、年齢別に死因順位をみると、10歳から39歳まで「自殺」は1位となっています。(図2)

自殺者数は、平成26(2014)年以降は減少傾向となり、平成28(2016)・29(2017)年においては100人を下回っています。自殺者数の減少に伴い、人口10万人あたりの自殺死亡率は平成29(2017)年には12.8に低下しています。また、千葉県や全国の自殺死亡率も同様の傾向となっています。(図3,4,5)

図1 船橋市の死因順位

順位	平成24年 (2012)	平成25年 (2013)	平成26年 (2014)	平成27年 (2015)	平成28年 (2016)	平成28年 (2016) (千葉県)	平成28年 (2016) (全国)
1	悪性新生物	悪性新生物	悪性新生物	悪性新生物	悪性新生物	悪性新生物	悪性新生物
2	心疾患	心疾患	心疾患	心疾患	心疾患	心疾患	心疾患
3	肺炎	脳血管疾患	肺炎	肺炎	肺炎	肺炎	肺炎
4	脳血管疾患	肺炎	脳血管疾患	脳血管疾患	脳血管疾患	脳血管疾患	脳血管疾患
5	老衰	老衰	老衰	老衰	老衰	老衰	老衰
6	不慮の事故	自殺	自殺	不慮の事故	不慮の事故	不慮の事故	不慮の事故
7	自殺	不慮の事故	不慮の事故	自殺	腎不全	自殺	腎不全
8	腎不全	腎不全	腎不全	腎不全	自殺	腎不全	自殺
9	糖尿病	肝疾患	糖尿病	大動脈瘤 及び解離	大動脈瘤 及び解離	大動脈瘤 及び解離	大動脈瘤 及び解離
10	慢性閉塞性 肺疾患	糖尿病	肝疾患	肝疾患	肝疾患	肝疾患	肝疾患

資料：船橋市保健所事業年報

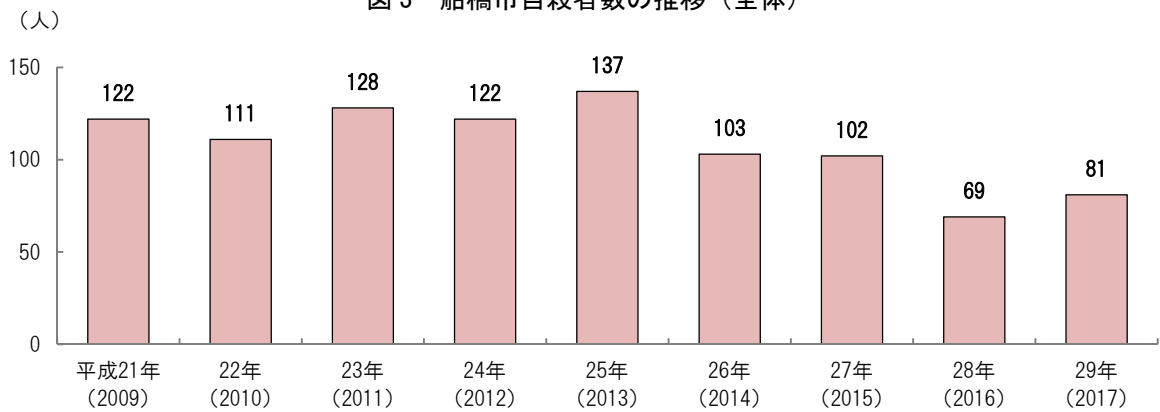
図2 船橋市年齢別死因順位（平成24(2012)～28(2016)年合算）（単位：人）

年齢階級	第1位		第2位		第3位		第4位	
	死因	死亡数	死因	死亡数	死因	死亡数	死因	死亡数
10～19歳	自殺	19	悪性新生物	10	不慮の事故	7	その他の神経系の疾患、脳血管疾患、その他の症状	各2
20～29歳	自殺	63	不慮の事故	19	悪性新生物	10	その他の神経系の疾患	5
30～39歳	自殺	94	悪性新生物	53	心疾患	30	不慮の事故	18
40～49歳	悪性新生物	196	心疾患	116	自殺	96	脳血管疾患	62
50～59歳	悪性新生物	423	心疾患	177	脳血管疾患	79	自殺	78
60～69歳	悪性新生物	1,435	心疾患	519	脳血管疾患	204	肺炎	88

資料：千葉県衛生統計年報（人口動態調査）

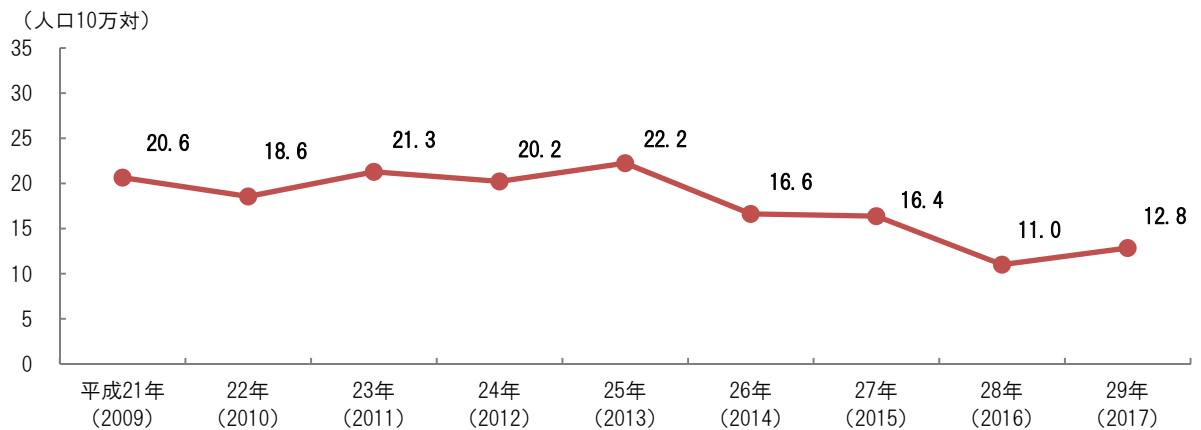
第2章 船橋市における自殺の現状

図3 船橋市自殺者数の推移（全体）



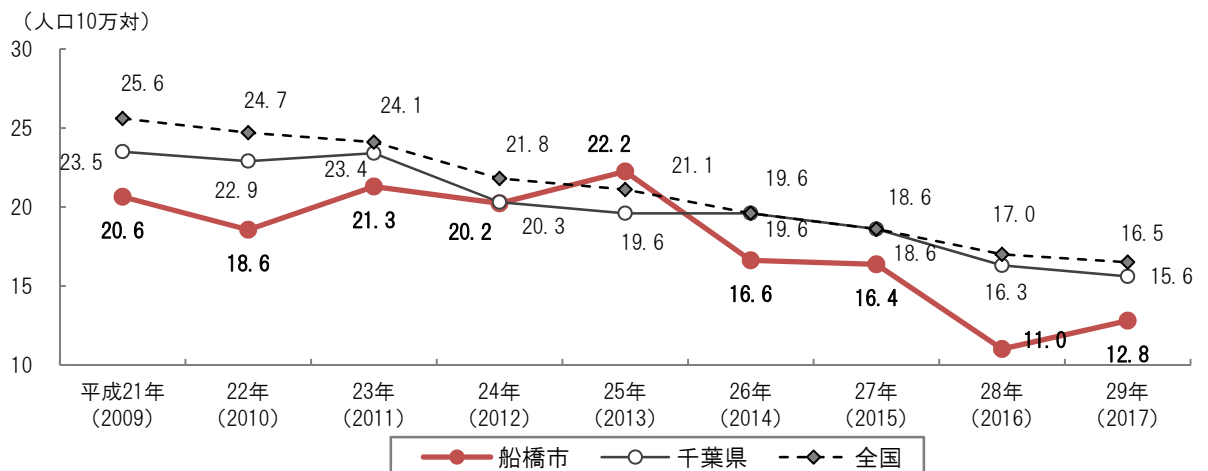
資料：厚生労働省「地域における自殺の基礎資料」（自殺日・住居地ベース）*

図4 船橋市自殺死亡率の推移（全体）



資料：厚生労働省「地域における自殺の基礎資料」（自殺日・住居地ベース）

図5 船橋市・千葉県・全国の自殺死亡率の推移（全体）



資料：厚生労働省「地域における自殺の基礎資料」（自殺日・住居地ベース）

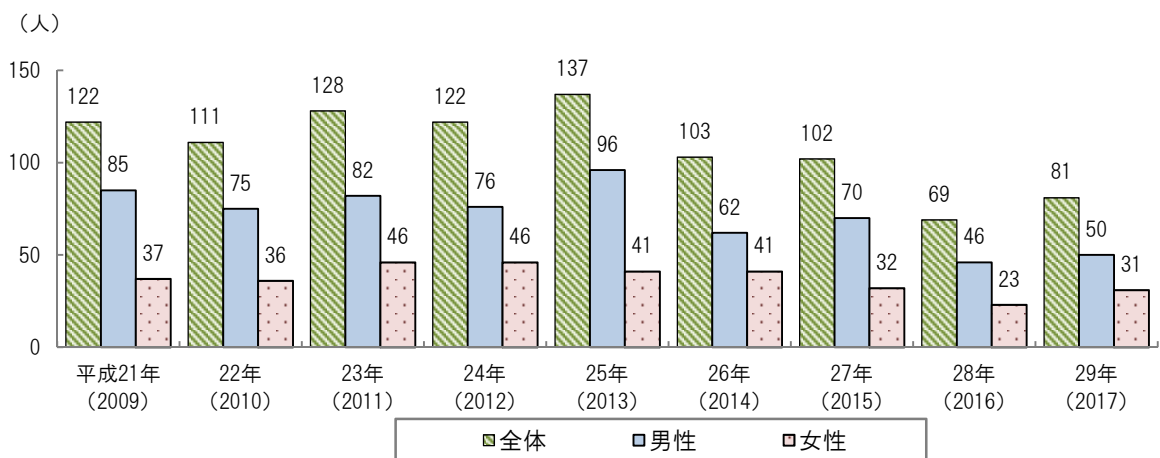
*厚生労働省「地域における自殺の基礎資料」（自殺日・住居地ベース）：警察庁からの自殺データに基づき、厚生労働省自殺対策推進室が全国・都道府県別・市区町村別自殺者数について再集計したもの。

(2) 男女別自殺者数・自殺死亡率の推移

船橋市の自殺者数は、男性は女性の約 1.5 倍から 2 倍となっており、自殺死亡率も男性が女性を大きく上回っています。(図 6,7)

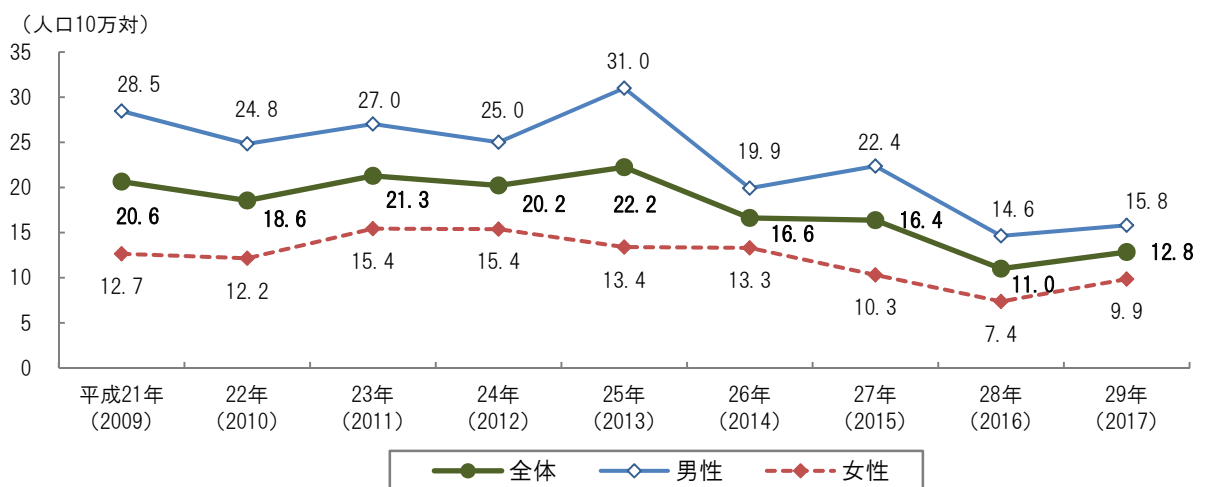
男女別自殺死亡率を千葉県や全国と比較すると、男性は平成 25 (2013) 年を除いて船橋市が低くなっており、女性では平成 23 (2011) ~26 (2014) 年には船橋市の方が高くなっていましたが、平成 27 (2015)・28 (2016) 年には船橋市が低くなっていきます。(図 8,9)

図 6 船橋市自殺者数の推移 (全体・男女別)



資料：厚生労働省「地域における自殺の基礎資料」(自殺日・住居地ベース)

図 7 船橋市自殺死亡率の推移 (全体・男女別)



資料：厚生労働省「地域における自殺の基礎資料」(自殺日・住居地ベース)

第2章 船橋市における自殺の現状

図8 船橋市・千葉県・全国の自殺死亡率の推移（男性）

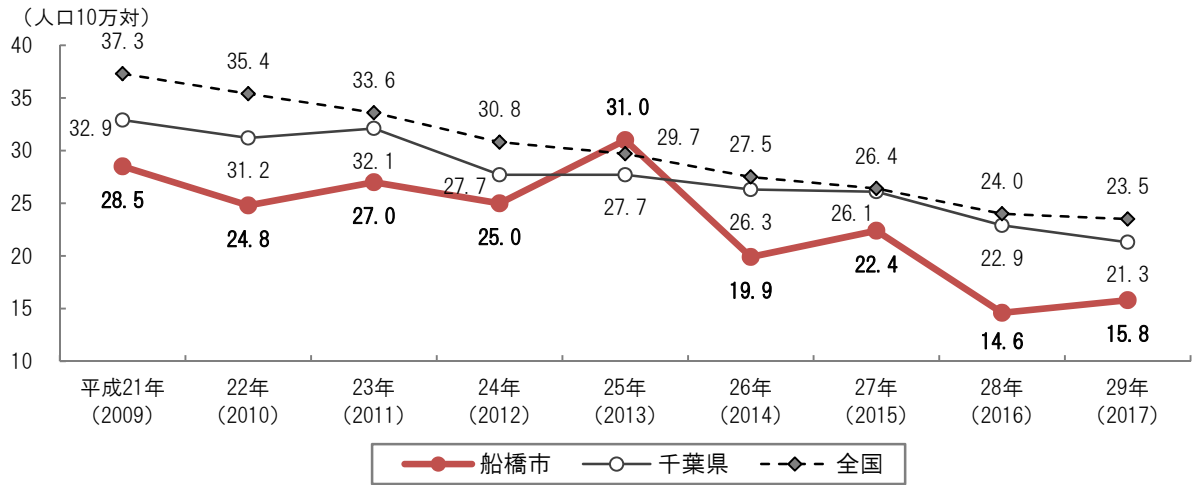
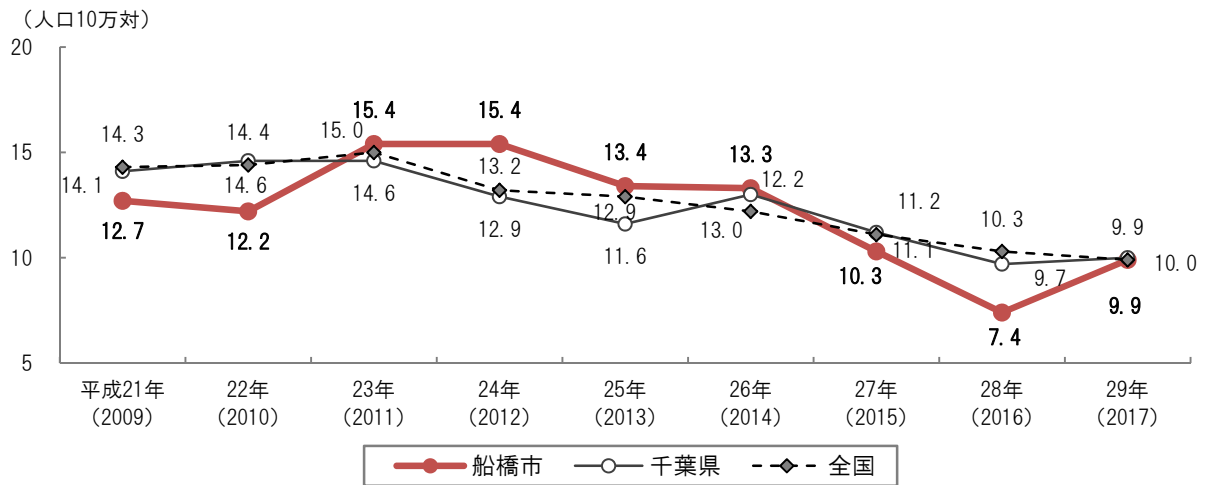


図9 船橋市・千葉県・全国の自殺死亡率の推移（女性）



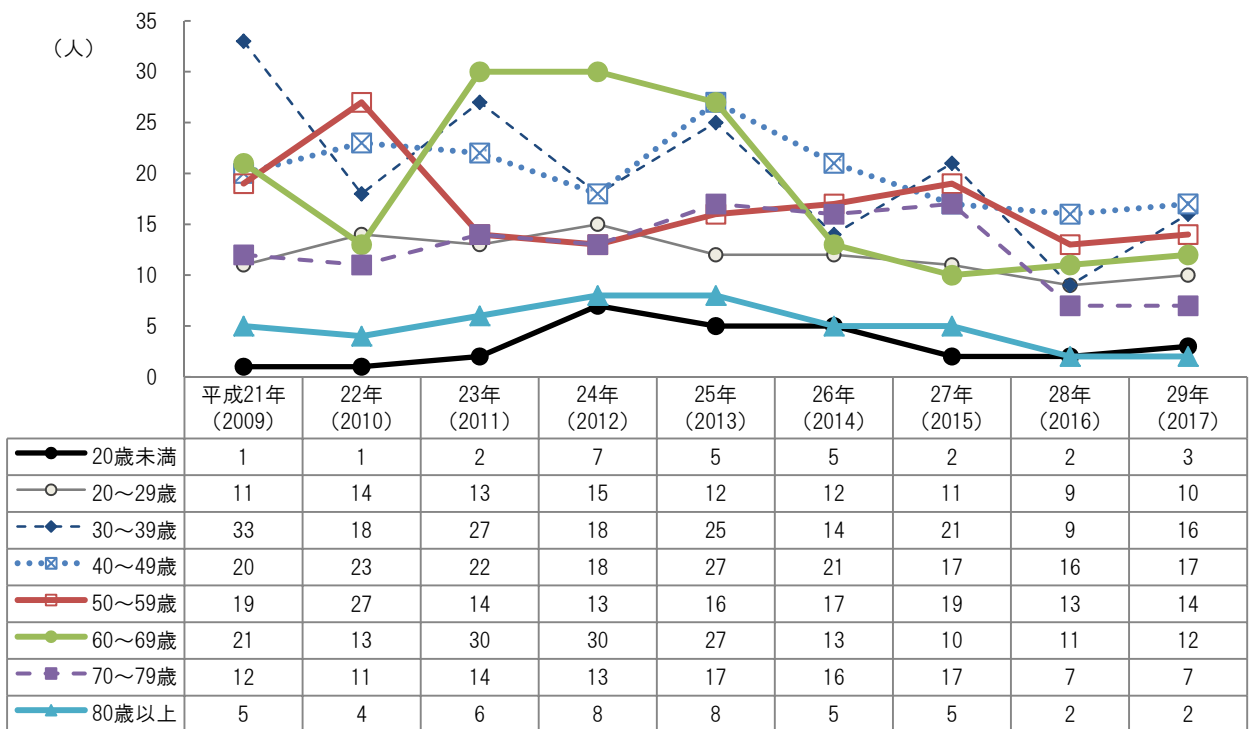
(3) 年齢別の自殺者数・自殺死亡率

自殺者数を年齢別にみると、39歳以下では横ばいの傾向が続いています。(図10)

また、自殺死亡率は、全ての年代で男性が女性を上回っています。(図14)

千葉県・全国と比較すると、男性では20歳未満を除き、船橋市は県や全国より低くなっていますが、女性では差があまり無く、50～69歳においては船橋市の方が高くなっています。(図15, 16)

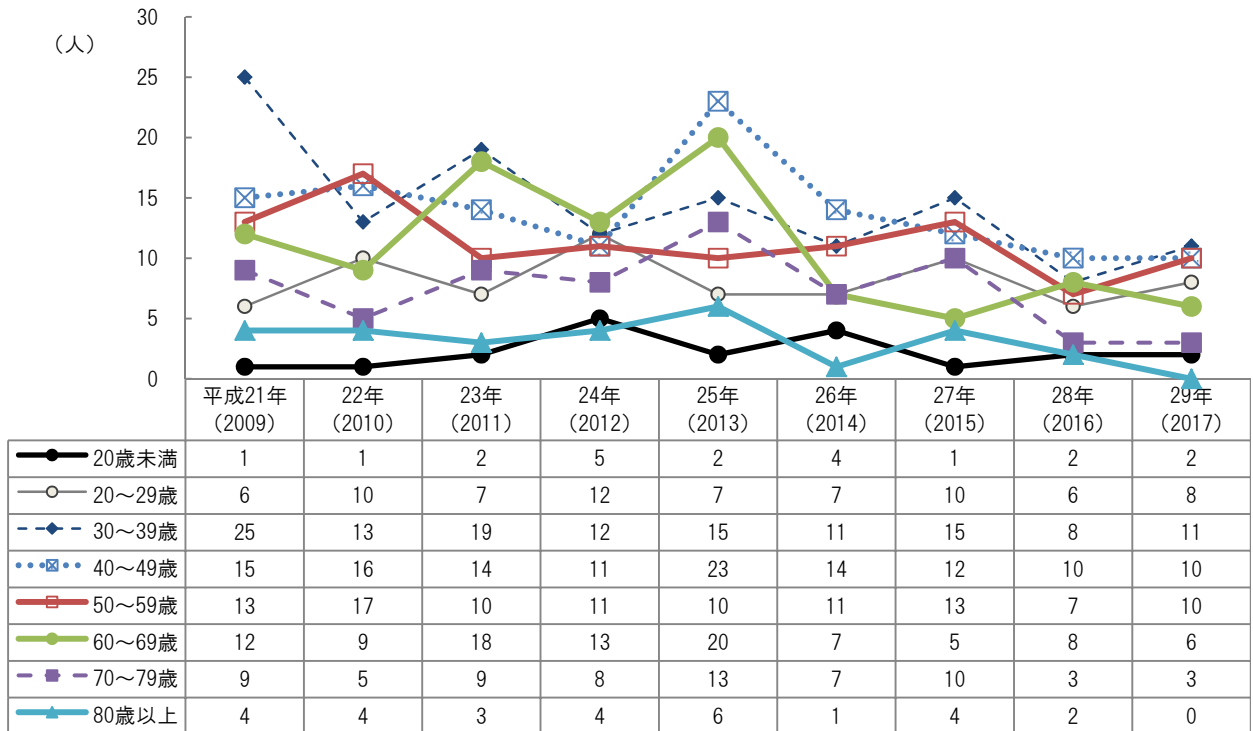
図10 船橋市年齢別自殺者数の推移(全体)



資料：厚生労働省「地域における自殺の基礎資料」(自殺日・住居地ベース)

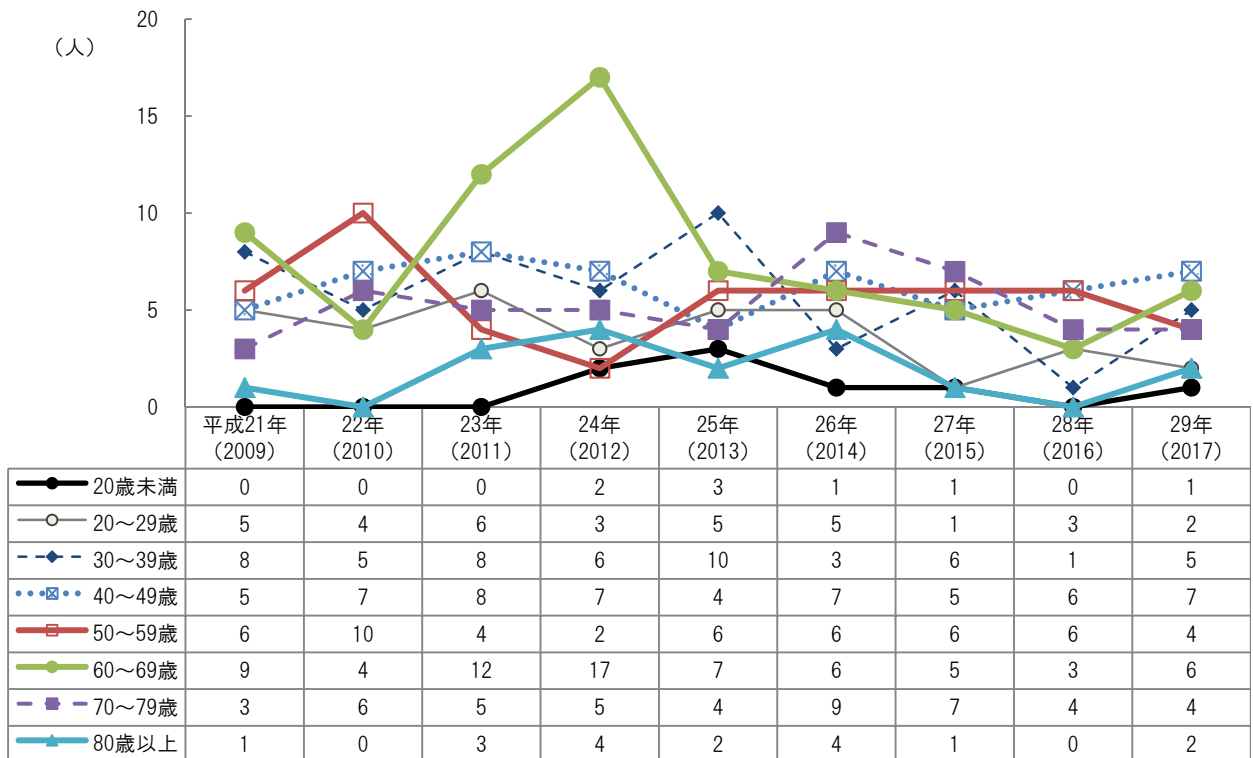
第2章 船橋市における自殺の現状

図 11 船橋市年齢別自殺者数の推移（男性）



資料：厚生労働省「地域における自殺の基礎資料」（自殺日・住居地ベース）

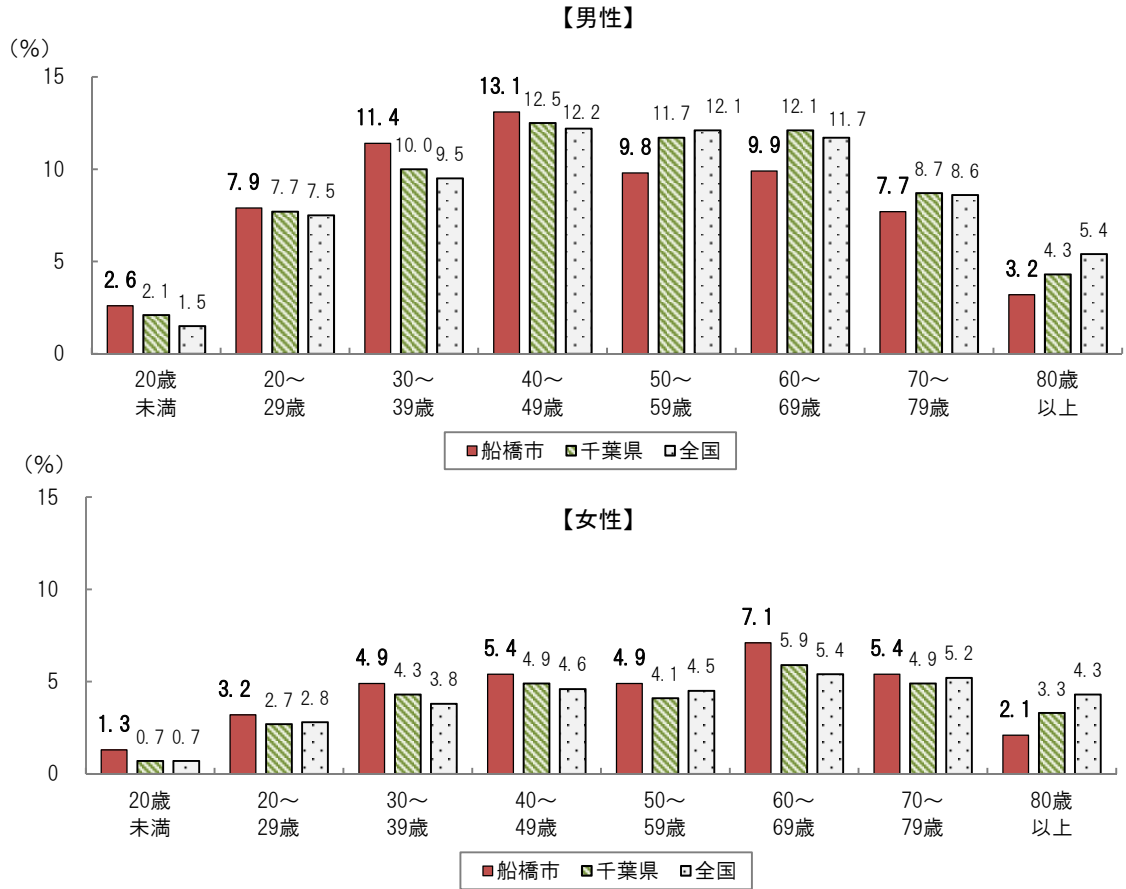
図 12 船橋市年齢別自殺者数の推移（女性）



資料：厚生労働省「地域における自殺の基礎資料」（自殺日・住居地ベース）

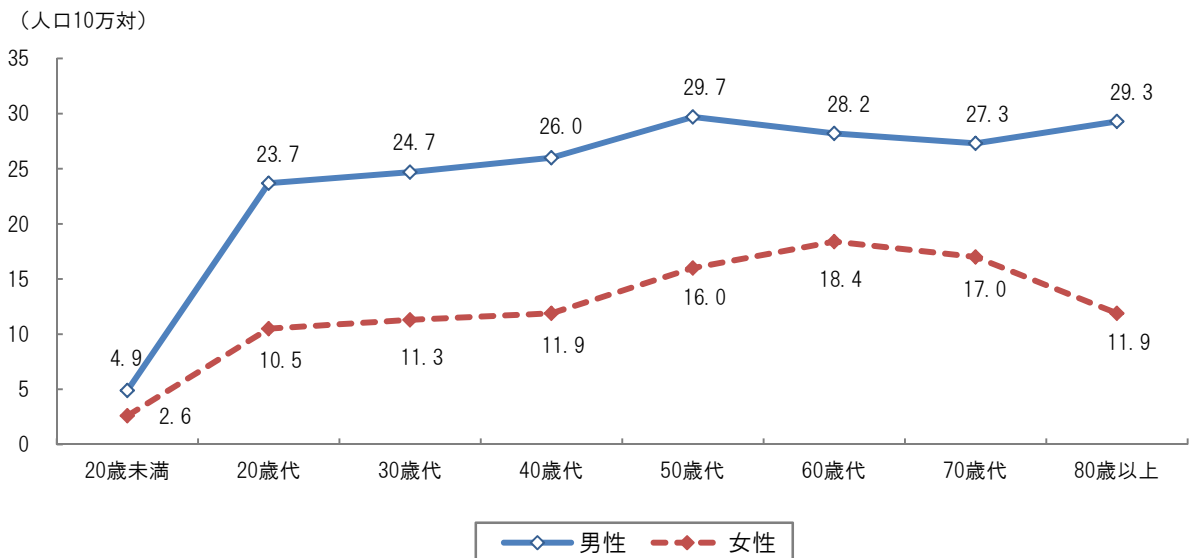
第2章 船橋市における自殺の現状

図13 船橋市・千葉県・全国の10歳階級別自殺者の構成割合
(平成24(2012)～28(2016)年合算)



資料：自殺総合対策推進センター「地域自殺実態プロファイル」*
※全自殺者に占める割合。年齢不詳は省略しているため、割合の合計は一致しない。

図14 船橋市年齢別自殺死亡率 (平成24(2012)～28(2016)年合算・男女別)

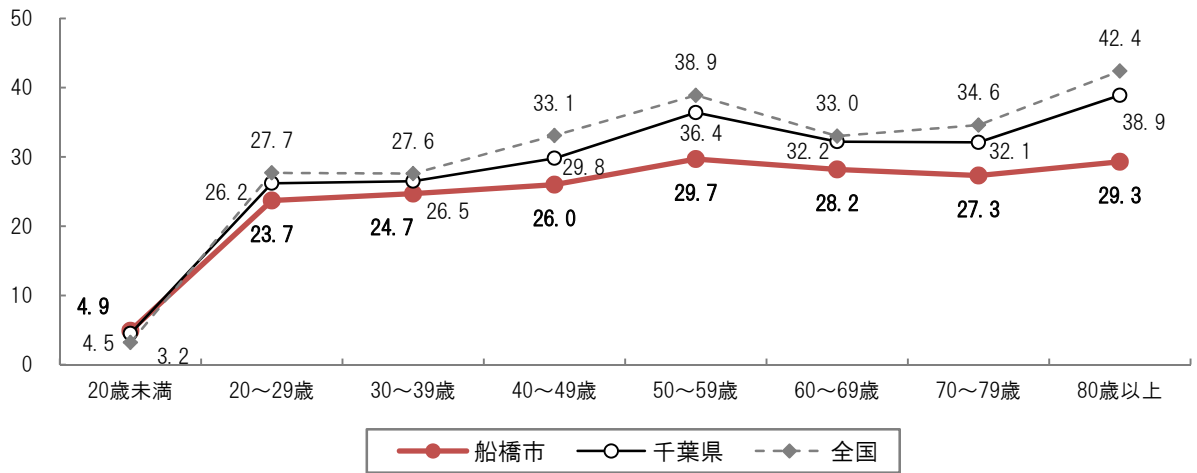


*自殺総合対策推進センター「地域自殺実態プロファイル」：地域自殺対策計画の策定を支援するために、自殺総合対策推進センターによって、地域の自殺の実態を詳細に分析したもの。

第2章 船橋市における自殺の現状

図15 船橋市・千葉県・全国の年齢別自殺死亡率（男性・平成24（2012）～28（2016）年合算）

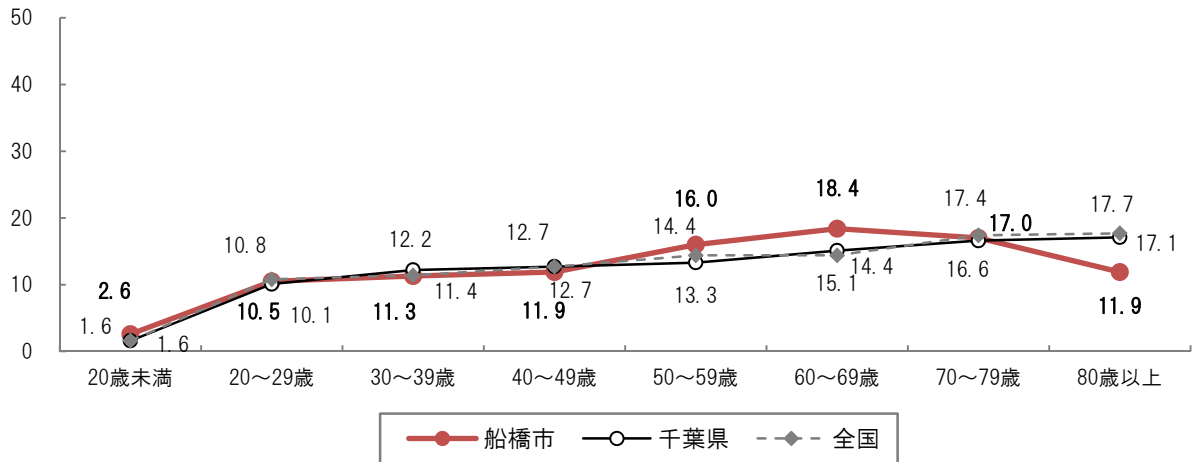
（人口10万対）



資料：自殺総合対策推進センター「地域自殺実態プロフィール」

図16 船橋市・千葉県・全国の年齢別自殺死亡率（女性・平成24（2012）～28（2016）年合算）

（人口10万対）



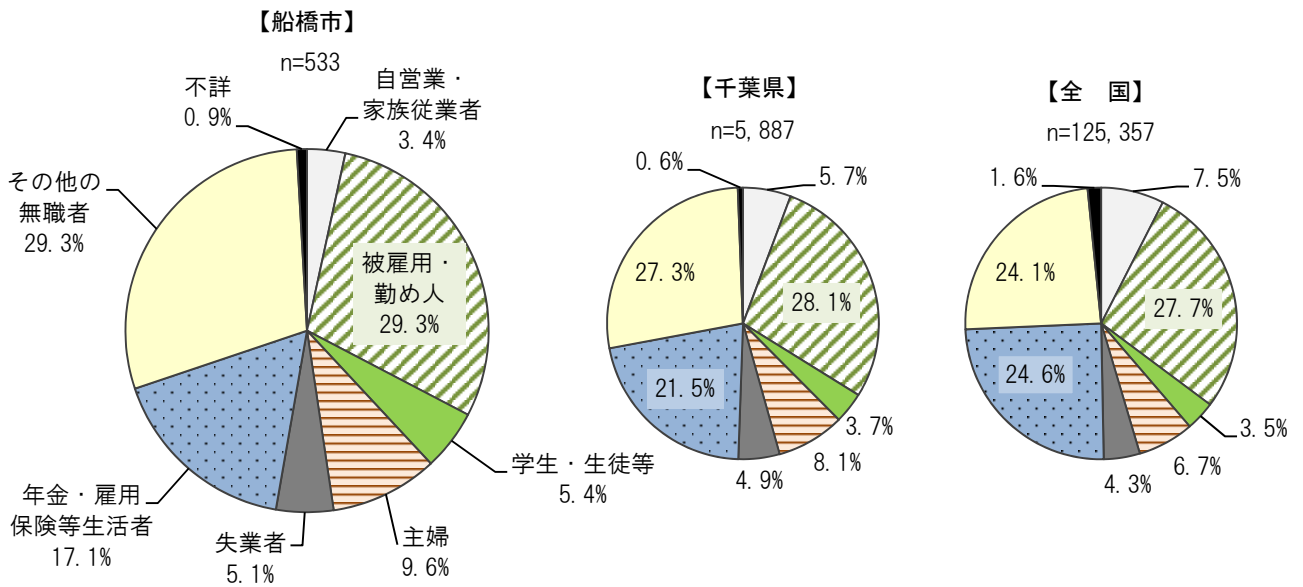
資料：自殺総合対策推進センター「地域自殺実態プロフィール」

(4) 職業別自殺者の割合

自殺者の職業については、「被雇用・勤め人」と「その他の無職者」が29.3%と最も高くなっています。また、千葉県・全国と比較すると、「学生・生徒等」と「主婦」は高くなっていますが、「年金・雇用保険等生活者」は低くなっています。(図17)

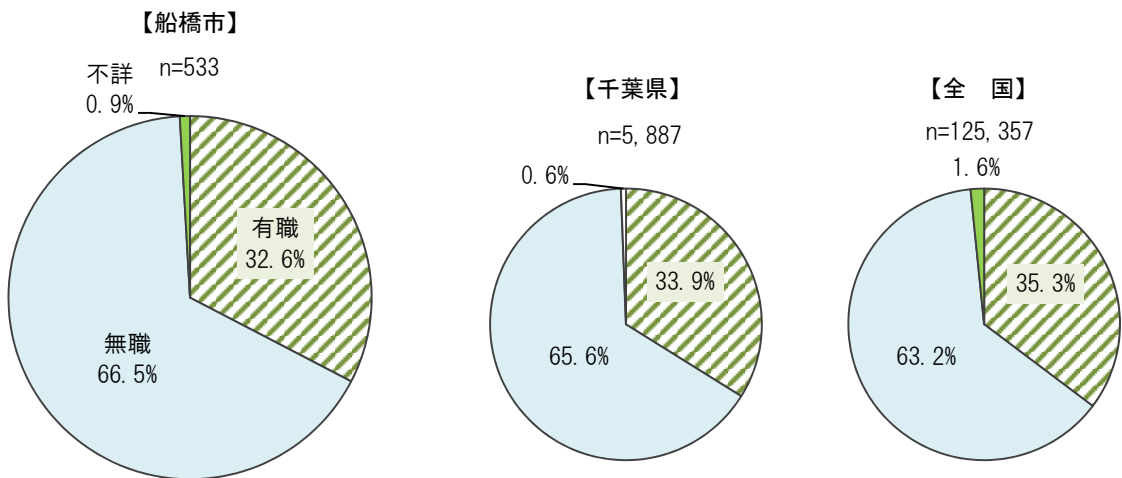
有職・無職別でみると、無職が有職の約2倍となっています。千葉県・全国との比較では、あまり大きな差はみられません。(図18)

図17 職業別自殺者の構成割合(平成24(2012)~28(2016)年合算)



資料：厚生労働省「地域における自殺の基礎資料」(自殺日・住居地ベース)

図18 有職・無職別構成割合(平成24(2012)~28(2016)年合算)



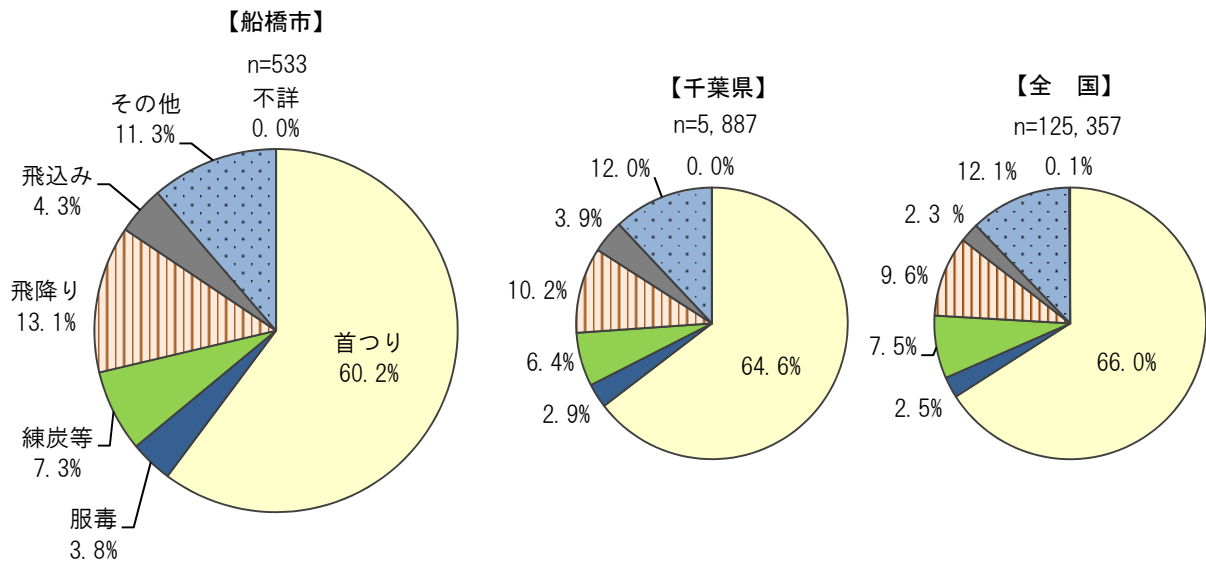
資料：厚生労働省「地域における自殺の基礎資料」(自殺日・住居地ベース)

第2章 船橋市における自殺の現状

(5) 手段別自殺者の構成割合

自殺の手段は、「首つり」が6割を越えており、千葉県や全国でも6割を超えています。また、「飛降り」が13.1%と千葉県・全国よりも高くなっています。(図19)

図19 手段別自殺者数の構成割合（平成24（2012）～28（2016）年合算）

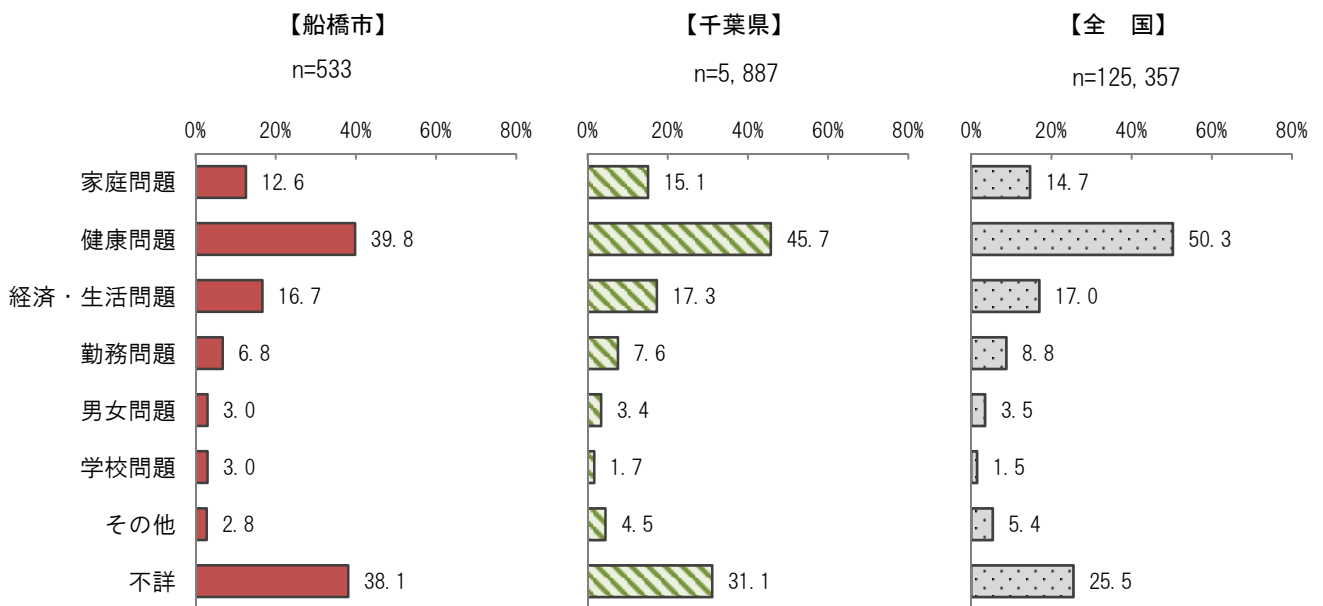


資料：自殺総合対策推進センター「地域自殺実態プロファイル」

(6) 自殺の原因・動機

自殺の多くは多様かつ複合的な原因及び背景を有しており、様々な要因が連鎖する中で起きています。個々の要因別にみると、「健康問題」が39.8%と最も高くなっていますが、千葉県や全国よりも低くなっています。また、「不詳」が38.1%となっており、こちらは千葉県・全国よりも高くなっています。(図20)

図20 原因・動機別構成割合(平成24(2012)~28(2016)年合算)



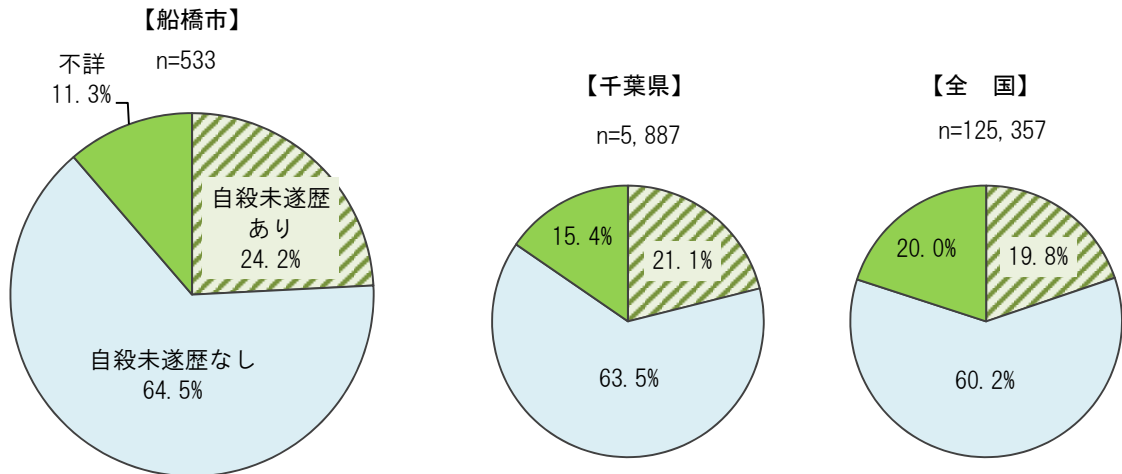
※原因・動機を3つまで計上可能としているため、原因・動機特定者の原因・動機別の合計と原因・動機特定者数とは一致しない
資料：厚生労働省「地域における自殺の基礎資料」(自殺日・住居地ベース)

第2章 船橋市における自殺の現状

(7) 自殺未遂歴の有無

自殺未遂歴は「自殺未遂歴あり」が24.2%と千葉県・全国よりも高くなっています。(図21)

図21 自殺未遂歴の有無別構成割合(平成24(2012)~28(2016)年合算)



資料：(船橋市・千葉県)自殺総合対策推進センター「地域自殺実態プロファイル」
(全国)厚生労働省「地域における自殺の基礎資料」

2 市民意識調査結果

本計画の策定にあたり、市民のこころの健康や自殺に対する考え方等の実態を把握するため、下記のとおり市民意識調査を実施しました。

【調査期間】

平成 30（2018）年9月～10月

【調査対象及び調査方法】

	調査対象	調査方法	回収数 (回収率)
一般調査	船橋市在住の20歳以上 (住民基本台帳から無作為抽出) 3,000人	郵送にて調査票を配付及び回収	1,186人 (39.5%)
中学生・高校生 調査	中学2年生(市内5校) 高校2年生(市内5校) 596人	学校単位にて調査票を配付及び 回収	559人 (93.8%)
幼児・小学生 保護者調査	1歳6か月児保護者 5歳児保護者 (市内保育園3園、幼稚園2園) 小学4年生保護者 (市内5校) 709人	郵送にて調査票を配付及び回収 施設単位にて調査票を配付及び 回収 学校単位にて調査票を配付及び 回収	498人 (70.2%)

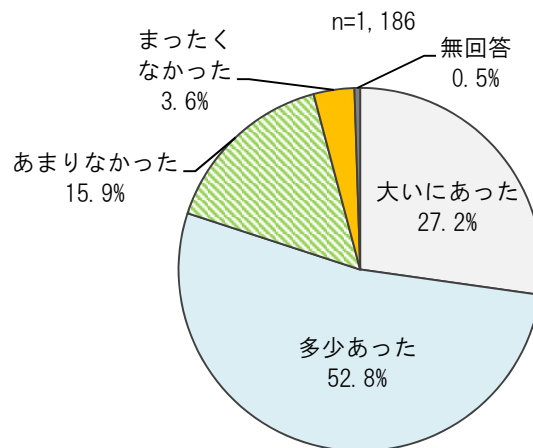
第2章 船橋市における自殺の現状

(1) 一般調査（抜粋）

問1 あなたは、この1か月間に、不満、悩み、苦労、ストレスなどがありましたか。（回答は1つ）

不満、悩み、苦労、ストレスの有無については、「多少あった」が52.8%で最も高く、次いで「大いにあった」が27.2%となっています。

図1-1 不満、悩み、苦労、ストレスの有無

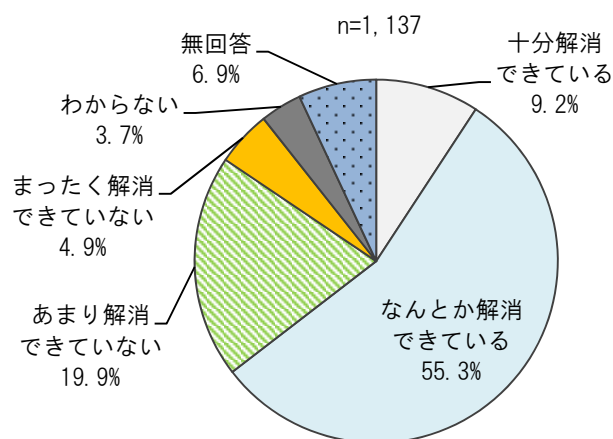


《問1で「大いにあった」、「多少あった」、「あまりなかった」のいずれかに回答された方にかがいます》

問2 不満、悩み、苦労、ストレスなどを解消できていると思いますか。（回答は1つ）

不満、悩み、苦労、ストレスの解消については、「なんとか解消できている」が55.3%で最も高く、次いで「あまり解消できていない」が19.9%となっています。

図1-2 不満、悩み、苦労、ストレスの解消

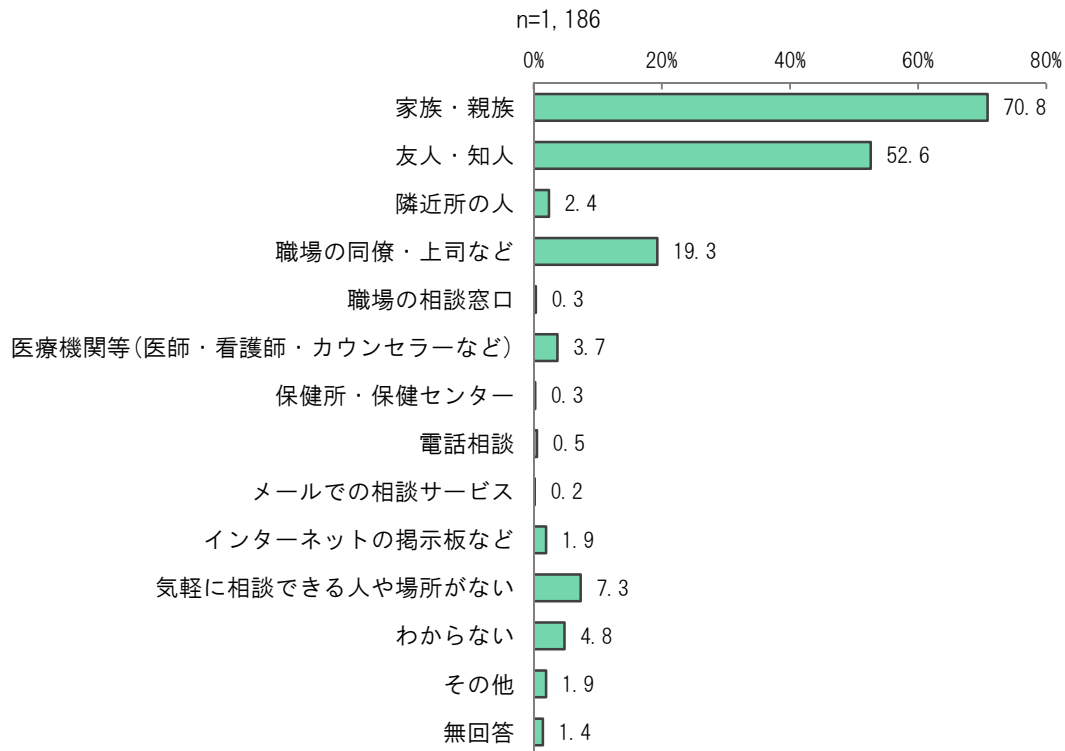


第2章 船橋市における自殺の現状

問3 あなたが悩み事や心配事などのストレスを抱えたとき、気軽に相談できる相手は誰（あるいはどこ）ですか。（回答はいくつでも）

悩み事や心配事の相談相手については、「家族・親族」が70.8%で最も高く、次いで「友人・知人」が52.6%となっています。

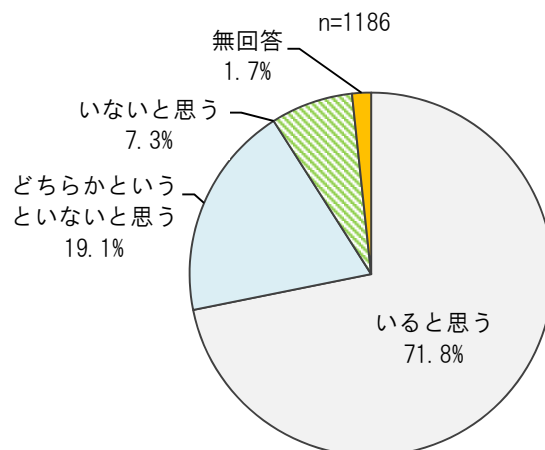
図1-3 悩み事や心配事の相談相手



問4 あなたは自分の気持ちを理解してくれる人がいると思いますか。（回答は1つ）

自分の気持ちを理解してくれる人がいるかについては、「いると思う」が71.8%、「どちらかというといないと思う」と「いないと思う」が合わせて26.4%となっています。

図1-4 自分の気持ちを理解してくれる人がいるか

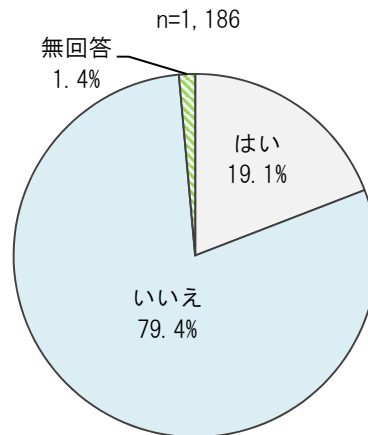


第2章 船橋市における自殺の現状

問5 あなたはこれまでの人生のなかで、本気で自殺したいと考えたことがありますか。(回答は1つ)

自殺したいと考えたことがあるかについては、「はい」が19.1%、「いいえ」が79.4%となっています。

図1-5 自殺したいと考えたことがあるか

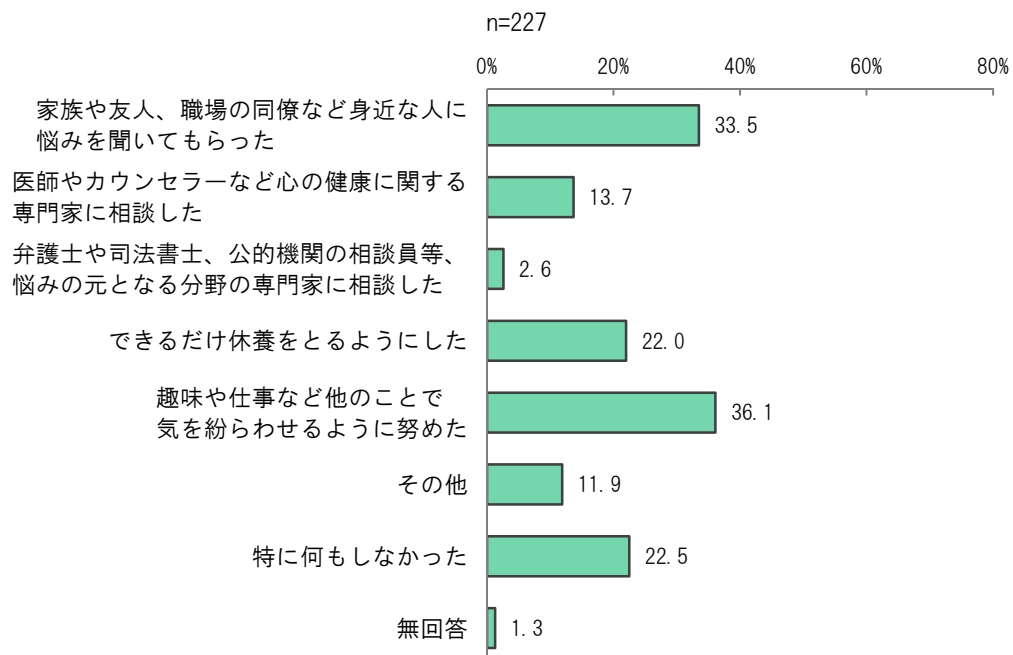


《問5で「はい」と回答された方にうかがいます》

問6 そのように考えたとき、どのように乗り越えましたか。(回答はいくつでも)

悩み事や心配事をどのように乗り越えたかについては、「趣味や仕事など他のことで気を紛らわせるように努めた」が36.1%で最も高く、次いで「家族や友人、職場の同僚など身近な人に悩みを聞いてもらった」が33.5%となっています。

図1-6 悩み事や心配事をどのように乗り越えたか

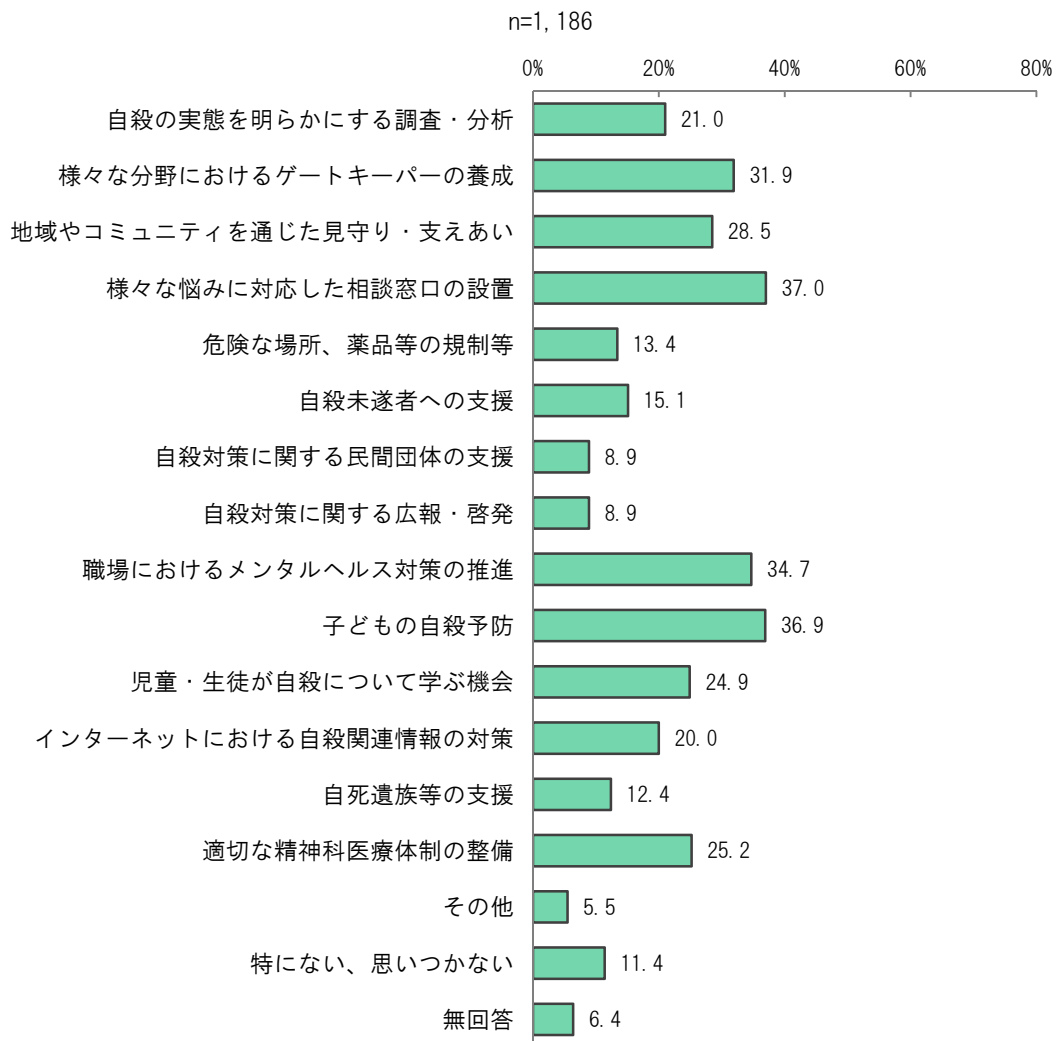


第2章 船橋市における自殺の現状

問7 今後求められるものとして、どのような自殺対策が必要になると思いますか。
(回答はいくつでも)

必要な自殺対策については、「様々な悩みに対応した相談窓口の設置」が37.0%で最も高く、次いで「子どもの自殺予防」が36.9%となっています。

図1-7 必要な自殺対策



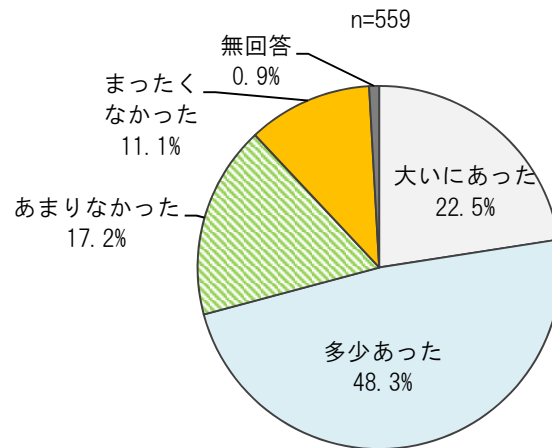
第2章 船橋市における自殺の現状

(2) 中学・高校生調査（抜粋）

問1 あなたは、この1か月間に、不満、悩み、苦労、ストレスなどがありましたか。（回答は1つ）

不満、悩み、苦労、ストレスの有無については、「多少あった」が48.3%で最も高く、次いで「大いにあった」が22.5%となっています。

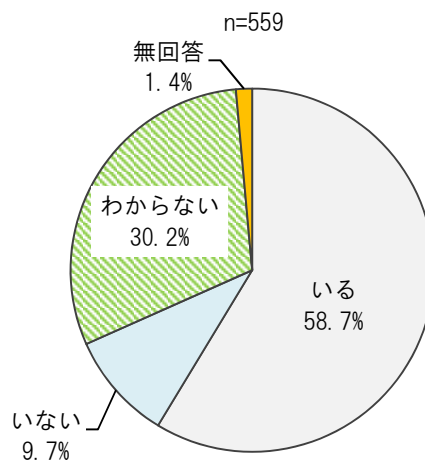
図 2-1 不満、悩み、苦労、ストレスの有無



問2 あなた自身が悩みを抱えたり、友達が困ったりしているのを見かけた時にSOSを出すことができる信頼のできる大人はいますか。（回答は1つ）

SOSを出すことができる信頼のできる大人の有無については、「いる」が58.7%で最も高く、次いで「わからない」が30.2%となっています。

図 2-2 信頼のできる大人の有無

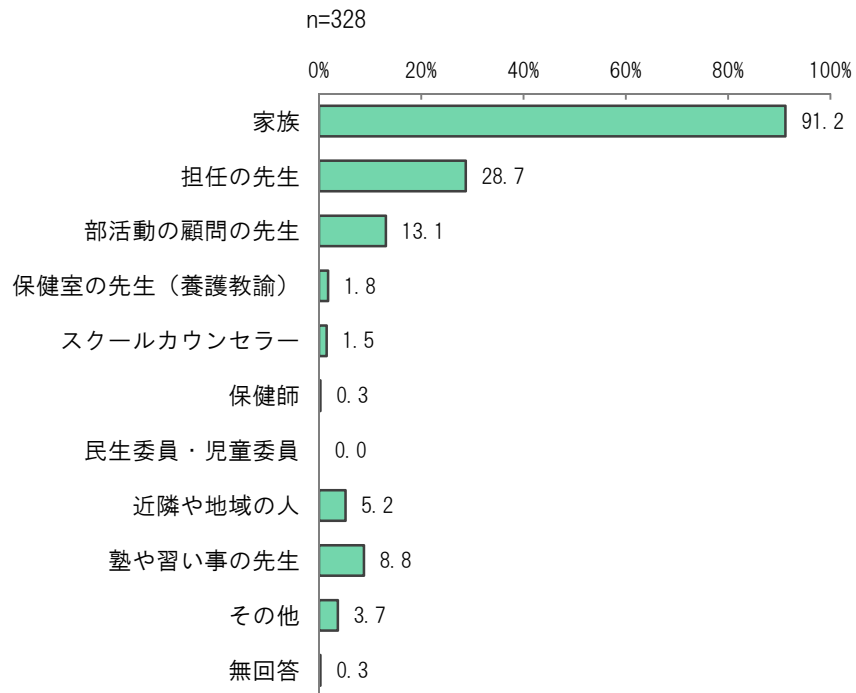


《問2で「いる」と回答された方にうかがいます》

問3 SOSを出すことができる大人はどのような人ですか。(回答はいくつでも)

SOSを出すことができる信頼のできる大人については、「家族」が91.2%で最も高く、次いで「担任の先生」が28.7%となっています。

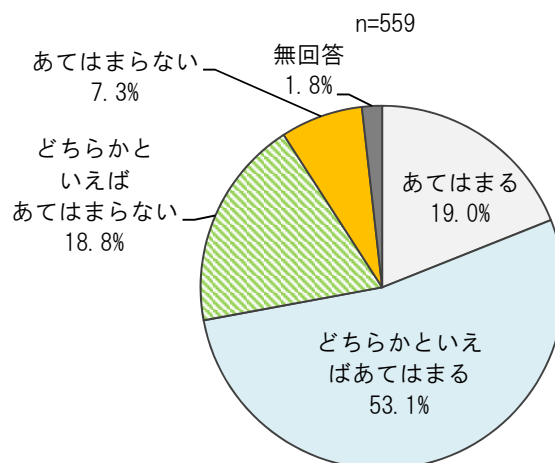
図 2-3 信頼のできる大人はどのような人か



問4 自分にはよいところがあると思いますか。(回答は1つ)

自分にはよいところがあると思うかについては、「あてはまる」と「どちらかといえばあてはまる」があわせて72.1%、「どちらかといえばあてはまらない」と「あてはまらない」があわせて26.1%となっています。

図 2-4 よいところがあると思うか



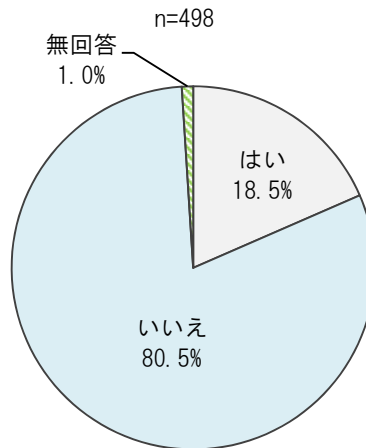
第2章 船橋市における自殺の現状

(3) 幼児・小学生保護者調査（抜粋）

問1 あなたはこれまでの人生のなかで、本気で自殺したいと考えたことがありますか。（回答は1つ）

自殺したいと考えたことがあるかについては、「はい」が18.5%、「いいえ」が80.5%となっています。

図3-1 自殺したいと考えたことがあるか

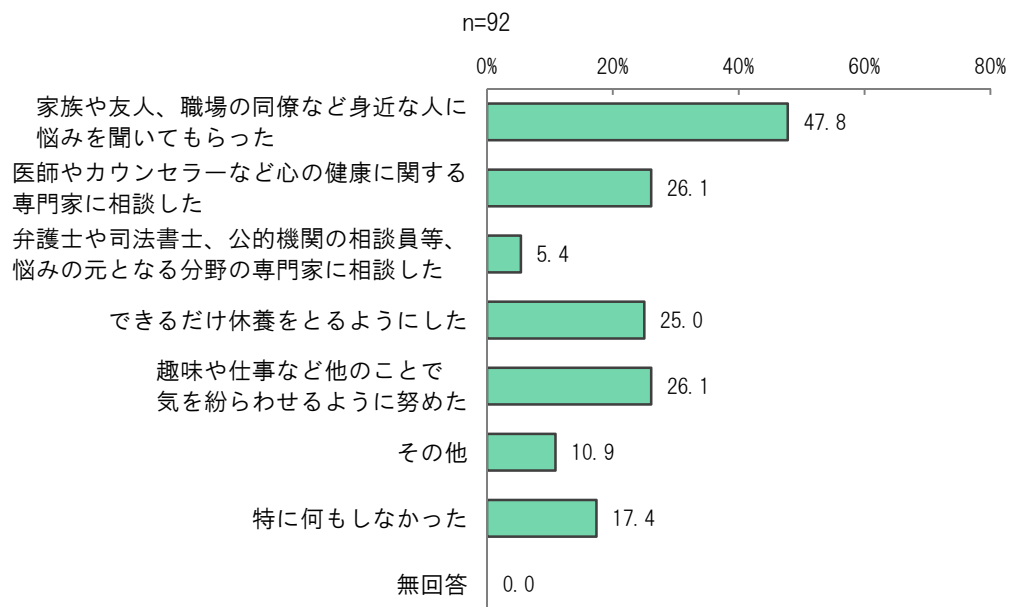


《問1で「はい」と回答された方にうかがいます》

問2 そのように考えたとき、どのように乗り越えましたか。（回答はいくつでも）

悩み事や心配事をどのように乗り越えたかについては、「家族や友人、職場の同僚など身近な人に悩みを聞いてもらった」が47.8%で最も高く、次いで「医師やカウンセラーなど心の健康に関する専門家に相談した」「趣味や仕事など他のことで気を紛らわせるように努めた」がそれぞれ26.1%となっています。

図3-2 悩み事や心配事をどのように乗り越えたか

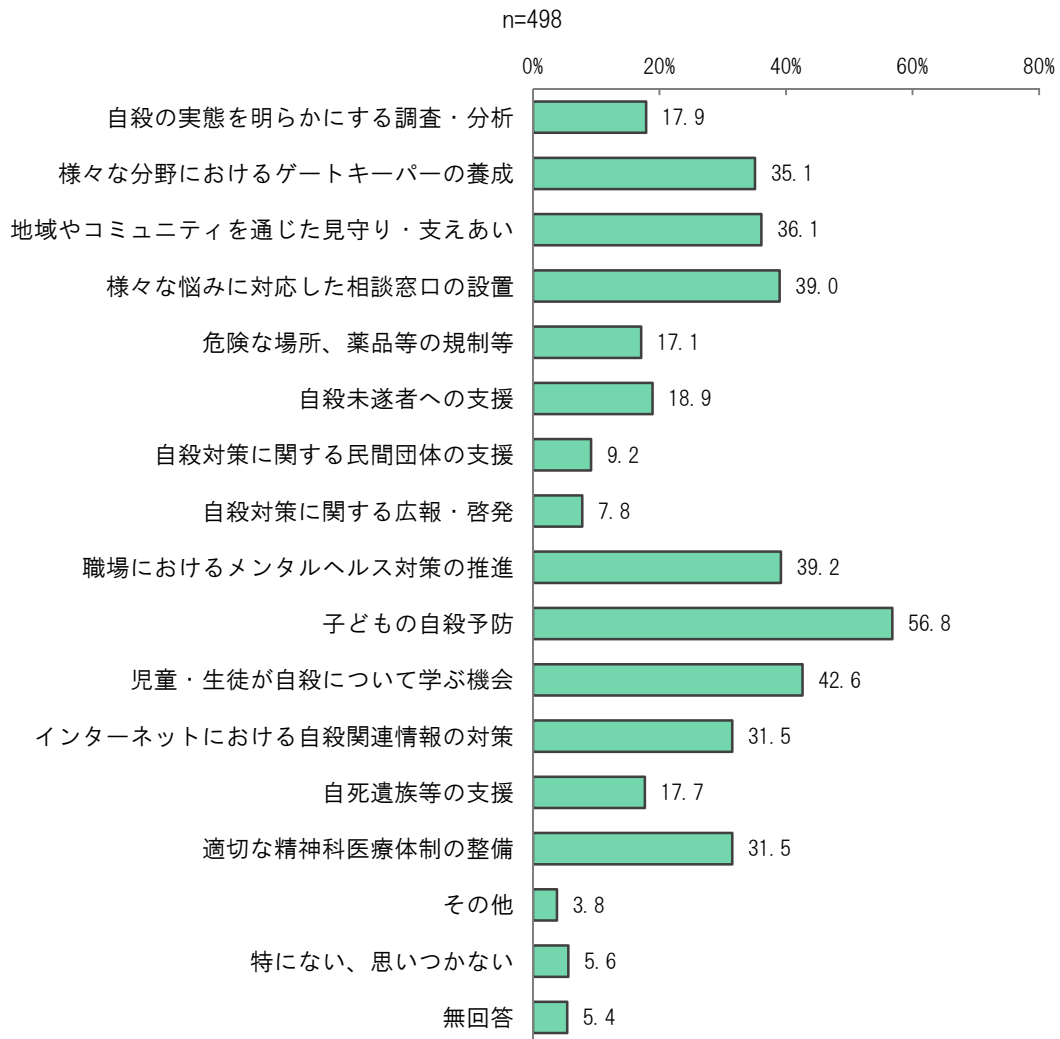


第2章 船橋市における自殺の現状

問3 今後求められるものとして、どのような自殺対策が必要になると思いますか。
(回答はいくつでも)

必要な自殺対策については、「子どもの自殺予防」が56.8%で最も高く、次いで「児童・生徒が自殺について学ぶ機会」が42.6%となっています。

図3-3 必要な自殺対策



3 自殺の危機経路

(1) 地域自殺実態プロフィール

「自殺総合対策推進センター」が作成した「地域自殺実態プロフィール」では、船橋市の自殺者数の最も多い層を「女性 60 歳以上無職同居」とし、背景にある主な自殺の危機経路を「身体疾患→病苦→うつ状態→自殺（※示された経路が唯一のものではない）」と示しています。

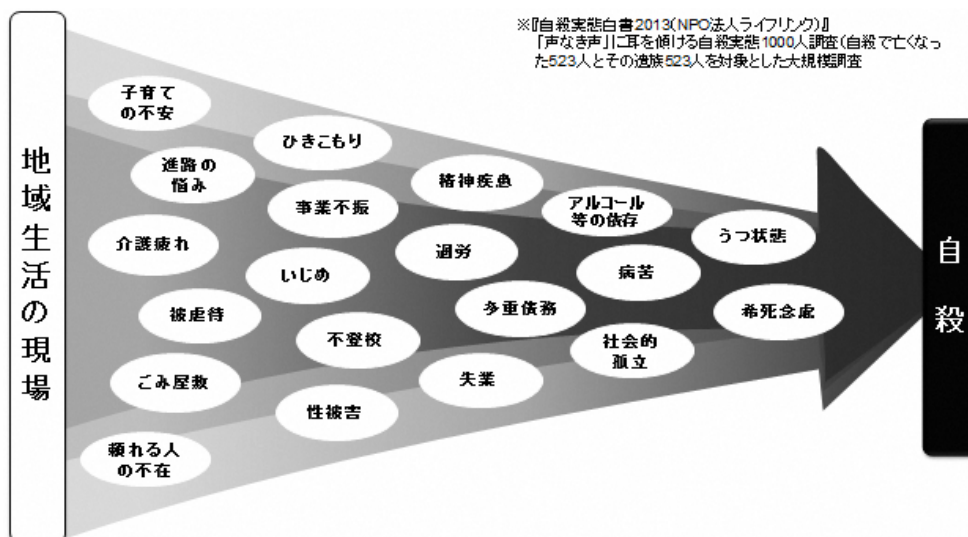
■船橋市の主な自殺の特徴（特別集計（自殺日・住居地、平成 24（2012）～28（2016）年合算）

上位5区分	自殺者数 5年計	割合 (%)	自殺率* (10万対)	背景にある主な自殺の危機経路**
1位:女性60歳以上無職同居	55	10.3	17.0	身体疾患→病苦→うつ状態→自殺
2位:男性60歳以上無職同居	52	9.8	25.4	失業(退職)→生活苦+介護の悩み(疲れ)+身体疾患→自殺
3位:男性60歳以上無職独居	36	6.8	96.9	失業(退職)+死別・離別→うつ状態→将来生活への悲観→自殺
4位:男性40～59歳有職同居	36	6.8	10.4	配置転換→過労→職場の人間関係の悩み+仕事の失敗→うつ状態→自殺
5位:男性40～59歳無職独居	35	6.6	344.2	失業→生活苦→借金→うつ状態→自殺

・船橋市の自殺者数は平成 24～28 年合計 533 人（男性 350 人、女性 183 人）（自殺統計（自殺日・住居地））
 順位は自殺者数の多さにもとづき、自殺者数が同数の場合は自殺率の高い順とした
 *自殺率の母数（人口）は平成 27 年国勢調査を元に自殺総合対策推進センターにて推計した
 **「背景にある主な自殺の危機経路」は自殺実態白書 2013（ライフリンク）を参考にした
 資料：自殺総合対策推進センター「地域自殺実態プロフィール」

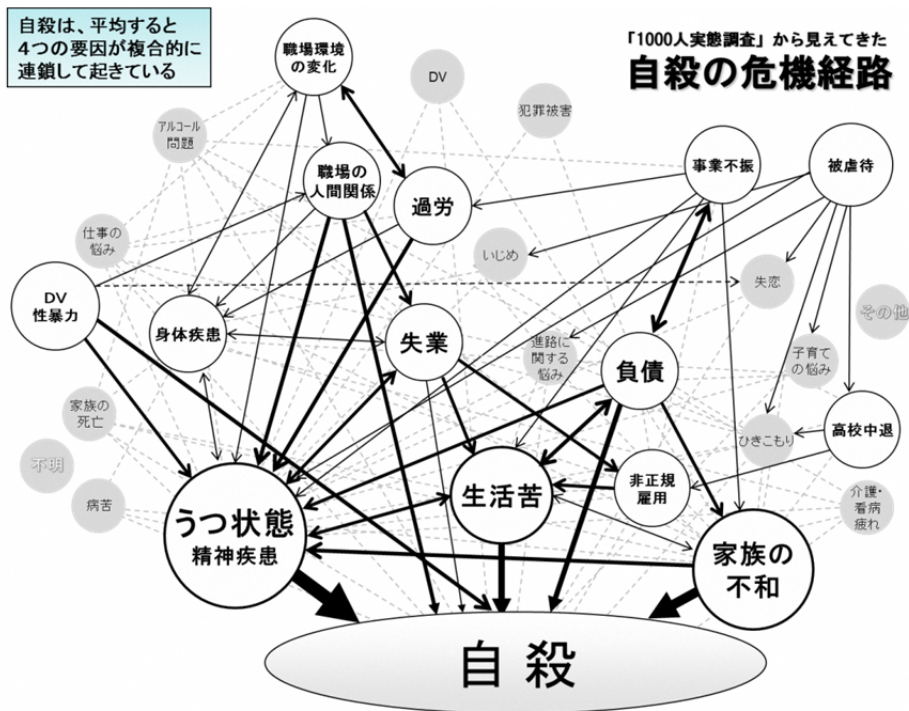
(2) 自殺の危機要因・危機経路

自殺の背景には様々な「危機要因」があり、自殺時に抱えていた「危機要因」は一つに留まらず、多岐にわたります。また、それぞれの要因が連鎖しながら「自殺の危機経路」を形成しています。それらの要因・経路に対しては既に様々な対策は行われていますが、それらの対策に対し有機的な連携を強化し総合的に取り組む必要があります。

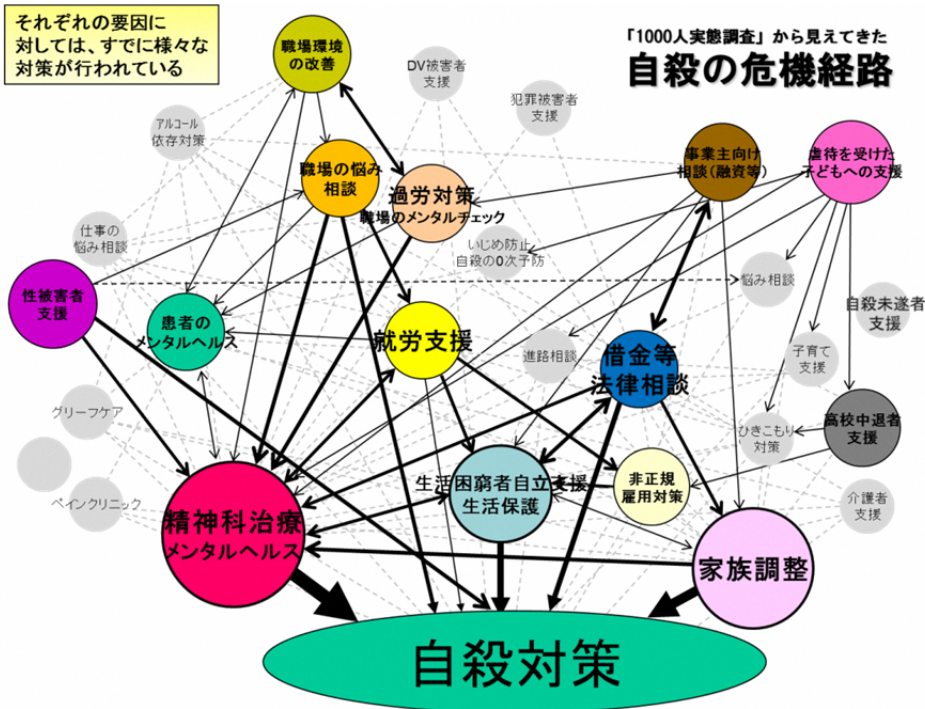


第2章 船橋市における自殺の現状

要因・経路



対策



出典：NPO 法人 ライフリンク

4 これまでの取組

(1) 人材育成

① 市役所窓口職員研修

市役所の窓口に来所された方の自殺のサインに気づき、見守りを行い、専門機関へつなげられる力を身につけるため、市職員を対象に平成 21（2009）年度より研修を開催しています。

② 関連団体向けゲートキーパー*研修

自殺のサインに気づき、見守りを行い、専門相談機関による相談へつなぐ役割が期待される人材の養成を行うため、平成 23（2011）年度より関係団体を対象とした研修会を開催しています。

③ 出前講座「あなたもゲートキーパー宣言！」

市職員や指定管理者等が講師として出向き、市の事業や施策などを説明する「まちづくり出前講座」のメニューとして、ゲートキーパーに係る講座を平成 25（2013）年度より設定し、地域の要請に応じて実施しています。

	①市役所窓口職員研修	②関係団体向けゲートキーパー研修	③出前講座「あなたもゲートキーパー宣言！」
平成 21 年度 (2009)	自殺の危険因子を抱える 市民と接する部署 (1 回)		
平成 22 年度 (2010)	(2 回)		
平成 23 年度 (2011)	(3 回) ※内 1 回は生活 支援課職員 (ケースカー)	船橋市民生児童委員協議会 (1 回) 一般社団法人船橋市医師会 (1 回)	
平成 24 年度 (2012)	(2 回)	千葉県理容生活衛生同業組合船橋 支部 (1 回)	
平成 25 年度 (2013)	(3 回)	一般社団法人船橋薬剤師会 (1 回)	(要請に応じて実施)
平成 26 年度 (2014)	(2 回)	船橋市民生児童委員協議会 (1 回)	
平成 27 年度 (2015)	(2 回)	船橋市民生児童委員協議会 (1 回)	
平成 28 年度 (2016)	(2 回)	船橋市民生児童委員協議会 (1 回) 京葉食品コンビナート協議会 (1 回)	
平成 29 年度 (2017)		船橋市民生児童委員協議会 (1 回) 船橋労働基準協会会員 (1 回)	

* ゲートキーパー：自殺の危険を示すサインに気づき、適切な対応（悩んでいる人に気づき、声をかけ、話を聞いて、必要な支援につなげ、見守る）を図ることができる人のこと。


(2) 若年層対策事業

① 小中学校の教職員向けゲートキーパー研修

若年層向けの自殺対策の一環として、児童生徒の心の悩みなどに対する対応力を向上させ、自殺予防を図るため、平成 28 (2016) 年度より教職員を対象に研修会を開催しています。

② 看護学生実習

若年者の自殺対策の一環として、保健所へ看護実習に来る学生を対象に、自殺対策について考える機会をつくっています。

	①小中学校の教職員向け ゲートキーパー研修	②看護学生実習
平成 28 年度 (2016)	市内小中学校等校長 (1 回)	順天堂大学 医療看護学部 (自殺対策をテーマとした健康教育の模擬)
平成 29 年度 (2017)	船橋市教職員 (生徒指導主事) (1 回)	

(3) 自殺未遂者支援事業

① 自殺未遂者対策に関する実態調査

救急医療機関に搬送された後の自殺未遂者の背景や未遂者への対応を把握し、自殺対策として有効な施策を検討することを目的に、自傷行為により船橋市立医療センターに入院し精神科を受診した自殺未遂者の関連資料について、平成 24 (2012) 年度に分析を行いました。

② 自殺企図者の相談支援事業

自殺企図者の再度の企図につながらないように、自傷行為により三次救急である船橋市立医療センターに入院し精神科を受診した自殺企図者を対象に、同意を得た上で、関係機関と連携しながら訪問、面接等の支援を平成 25 (2013) 年 12 月よりモデル事業として実施し、平成 28 (2016) 年度からは本実施しています。

③ 医療従事者向け自殺未遂者対策研修等

平成 27 (2015) 年度に二次救急医療機関を対象に、平成 28 (2016) 年度に精神科病院を対象にアンケート調査を実施。平成 29 (2017) 年度はこれらのアンケート調査結果を得て、自殺企図者に接する機会が多い医療従事者を対象に、自殺企図者への対応についての講義や一般病院と精神科病院の情報交換を行う研修を実施しました。

第2章 船橋市における自殺の現状

④ 自殺対策専門職向けスキルアップ研修

自殺念慮者等と接する機会が多い市職員の専門職を対象に外部講師を招き、初期対応の仕方や本人や家族への支援方法を学ぶとともに、支援者自身のメンタルヘルスのセルフケアについても学びました。

	①自殺未遂者に関する実態調査	②自殺企図者の相談支援事業	③医療従事者向け自殺未遂者対策研修等	④自殺対策専門職向けスキルアップ研修
平成 24 年度 (2012)	実態調査実施			
平成 25 年度 (2013)		モデル事業として実施		
平成 26 年度 (2014)		↓		
平成 27 年度 (2015)			二次救急医療機関を対象にアンケート調査	保健師等専門職研修 (1回)
平成 28 年度 (2016)		本実施	精神科病院を対象にアンケート調査	↓ (1回)
平成 29 年度 (2017)		↓	研修 (1回) ・講演「精神科病院での自殺企図患者受け入れの限界—対応困難症例を通して—」 ・事例検討等	消防職員研修 (3回)

(4) 普及啓発事業

① こころの市民講演会

広く市民の方に自分自身や家族、身近な人たちのこころについて考えることで「いのち」と向き合い「生きることを支える」意味、こころの健康の大切さについて考える機会とするため、講演会を開催しました。

年度	内容	会場、参加者数
平成 23 年度 (2011)	「ひとにも自分にもやさしく生きるために」 精神科医 香山 リカ 氏	勤労市民センター 327 名
平成 24 年度 (2012)	「へこたれない～命のメッセージ～」 諏訪中央病院名誉院長 鎌田 實 氏	市民文化ホール 950 名
平成 25 年度 (2013)	1 回目：「最初で最後のオリンピックを目指して」 ロンドンオリンピック女子レスリング 48kg 級・ 金メダリスト 小原 日登美 氏 2 回目：「ストレスと上手につきあう方法 ～こころの健康と豊かな人間関係～」 こころ元気研究所長・産業カウンセラー 鎌田 敏 氏	勤労市民センター 180 名 きららホール 143 名
平成 26 年度 (2014)	「～笑う門には福来る～笑って健康」 落語家 三遊亭小遊三 氏	市民文化ホール 936 名

② 相談窓口リーフレットの配布、公用車ボディパネルの設置、声かけて支えあってつなぐ絆キャンペーン

自殺予防に関連のある分野の相談窓口を市民に広く周知するため、庁内外の相談窓口を掲載したリーフレットを平成 23 (2011) 年度に作成し、新聞折り込みによる全戸配布をしました。また、同デザインのボディパネルを市役所本庁舎の公用車全台に設置しました。リーフレットは数年毎に改訂版を作成し、成人式や健康まつり等で配布しています。

平成 24 (2012) 年度からは、自殺対策強化月間である 3 月に、市役所窓口等でリーフレットを配布する「声かけて 支えあって つなぐ絆」キャンペーンを実施しています。

第2章 船橋市における自殺の現状

③ 広報・ポスター等による啓発

自殺予防週間や自殺対策強化月間において、広報ふなばしやポスター等を活用して啓発するほか、一般社団法人日本産業カウンセラー協会等が行う船橋駅でのキャンペーン活動に参加協力しています。

また、自殺対策の普及啓発及び民間団体の活動支援を目的として、千葉いのちの電話の講演会を共催や後援とし、広報等に協力しています。

(5) その他

① 自殺対策に関する実態調査

本市における自殺の関連要因の実態を把握し、自殺対策として有効な施策を検討する目的で、平成 23（2011）年度に実態調査を実施しました。人口動態調査、市消防局救急課、千葉県警察本部、市内精神科医療機関、市役所における自殺の関連要因資料等の分析をしました。

② 自殺対策連絡会議

自殺対策を総合的に推進するため、平成 22（2010）年度に自殺対策連絡会議を設置し、自殺の実態把握に関すること、関係団体の活動情報交換と相互連携に関すること、自殺防止の啓発、広報等に関すること、その他自殺対策の総合的な推進に関することについて審議を行っています。

構成員：学識経験者、保健医療関係者、自殺対策に関わる活動団体の代表、産業労働関係者、福祉関係者、警察関係者、鉄道事業者、市職員

③ 自殺対策庁内連絡会議

自殺対策を総合的かつ円滑に推進するため、平成 22（2010）年度に自殺対策庁内連絡会議を設置し、自殺予防に関することやその他必要な事項の調整に関することを行っています。